

未来へ向けてフクシをつなげ 笑顔のバトンを届ける人

障がいのあるなしに関係なく、楽しく暮らしていける草加市。
笑顔のまちを目指すフクシの旅は、まだまだ始まったばかりです。
仕事も、遊びも、そして暮らしも、障がいのある人もない人も、みんなが笑って生きていく。
そんな理想の未来に向かって、それぞれのフィールドから、笑顔のバトンを届ける人がいます。

夢に向かって世界に羽ばたく



▲イベントでの一コマ。偶然カメラに笑顔に向けてくれた。

みよし みらい
三好未来さん

アイドルを目指す小学3年生

生まれつき脳性まひにより、2歳まで自分の力だけでは座ることも難しかった未来さん。懸命なりハビリの甲斐もあり、今ではつえや歩行器を使って一人で歩けるまでになった。そんな彼女の将来の夢は、アイドルになってたくさんの人を笑顔にすること。昨年の24時間テレビで、お笑いコンビのEXITと共演したり、2月に開催される世界的ファッションイベント、ロンドン・コレクションでランウェイを歩いたりするなど、夢に向かって一歩ずつ確実に歩みを進めている。



みんなが楽しめる遊び場をつくるプロジェクト・ふくフク児童館探検の様子。三好さんも実際に遊びながら、よりよい遊び場をつくるお手伝いをしました。左はこのプロジェクトを進めるリンクワーカーのひとりで、大学で障がい福祉を学んでいる長尾珠里衣さん。

2人でパンに希望を乗せて



しもだ たける
霜田健成さん (中学3年生)

おぐら たくま
小倉拓馬さん (おーぐぱん 代表)

ふくフク研のイベントで知り合った2人。健成さんの「おーぐぱんのパンは僕には固くて食べられない」という言葉が小倉さんの職人魂に火をつけた。水分や卵の量をとことん調整し、試行錯誤の末に、噛む力が弱い人でもおいしく食べられるフランスパンを共同開発した。春頃の販売を目指して、引き続き試作を重ねている。ちなみに健成さんは受験生で、第一志望である普通高校への入学を目指して、猛勉強の日々を送っている。

◀まるで年が離れた兄弟のような二人。



仲良く意見を交わす2人。
パン職人の小倉さんにとって、健成さんからの意見はとても新鮮で貴重なものだと思います。

知って、触れて、関わって あなたの笑顔が未来を変える

様々な人たちが出会い、関わって、楽しく過ごすことができる場を作っていきたいという人がいます。たくさんの人と人をつなげて、その人たちを笑顔にできるように、柔軟な発想で自らの視野を広げていきたいという人がいます。最初は先入観や思い込みがあっても、話していくうちにその人の新たな一面を知り、抱いていたレッテルは自然とはがれていく、という人がいます。
すべて、今回の取材を通して聞いたお話です。

人と人がつながれば、笑顔が生まれます。笑顔が増えれば、まちが変わり、まちが変われば、そこに住む人の未来が変わります。あなたの笑顔には、それだけ大きな力が秘められているのです。フクシとは、特別なことでも、遠い世界のことでありません。みんなを知って、触れて、関わって、笑顔を増やしていく。
その先に、みんなにとって暮らしやすい草加の未来が待っています。